

報道関係者各位

【調査レポート】
「歯科診療」及び「歯科医師」に関する意識調査

2010年9月22日

- ★通院目的では「むし歯の治療」(84.9%)が多いが、歯周病に気づいていないケースも
- ★歯科医師は「信頼できる」(33.5%)、「優しい」(29.7%)、
「親しみやすい」(26.5%) などプラスイメージが多い
- ★ほとんど(95.7%)の人が、歳をとっても自分の歯で食べることの重要性を認識
- ★8割の人が“口の健康が全身の健康に影響する”と考えているが、
具体的な知識をもっている人は半数に満たない

最近、口の健康が全身の健康と関係のあることが明らかになってきた。さらに、むし歯の減少と歯周病の増加、超高齢社会の到来による疾病構造の変化など、歯科医療をとりまく環境は大きく変化し、国民の歯科医療に対するニーズも多様化、高度化してきた。

社団法人日本私立歯科大学協会(東京都千代田区)では、「オーラルケアを含む歯科医療」に関する意識を明らかにすることを目的に、10～70代の幅広い世代の男女1,000名(全国8エリア)に対して、『「歯科診療」及び「歯科医師」に関する意識調査』を行った。

●調査期間:2010年5月21日(金)～24日(月) ●調査対象:10～70代の男女1,000名 ●調査方法:インターネット調査

CONTENTS

1. 歯科医院に関する意識 (P2)

- 国民の大半(96.2%)が歯科医院への通院経験があり、現在通院中の人は12%
- 通院目的では「むし歯の治療」(84.9%)が多いが、歯周病に気づいていないケースも
- 立地や費用より「歯科医師の技術」(67.3%)、「評判」(66.2%)、「歯科医師の人柄」(60.7%)で歯科医院を選択
- 「痛い」(55.9%)、「治療期間が長い」(55.3%)など歯科医院のネガティブなイメージが10代の若者では改善

2. 歯科医師に関する意識 (P4)

- 歯科医師は「信頼できる」(33.5%)、「優しい」(29.7%)、「親しみやすい」(26.5%) などプラスイメージが多い
- 「丁寧」で「痛くない」治療をする歯科医師が理想

3. オーラルケアを含む歯科医療に関する意識 (P5)

- ほとんど(95.7%)の人が、歳をとっても自分の歯で食べることの重要性を認識
- 訪問(在宅往診)歯科診療での高齢者に対するオーラルケアの必要性認知が不十分
- 8割の人が“口の健康が全身の健康に影響する”と考えているが、具体的な知識をもっている人は半数に満たない
- まだまだ歯科医療に関する正しい情報が伝わっていない現状が明らかに

1. 歯科医院に関する意識

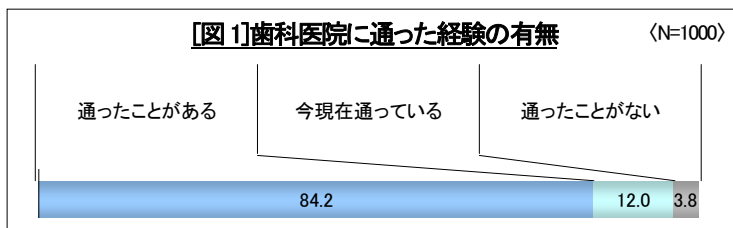
歯科医院といえば、かつては「むし歯で歯が痛くなったら行くところ」だったが、その役割やイメージが最近変わってきているという。「歯科医院」についての意識と実態を聞いてみた。

●Q1／あなたは歯科医院に通ったことがありますか？

国民の大半(96.2%)が歯科医院への通院経験があり、現在通院中の人は12%

まず、「あなたは歯科医院に通ったことがありますか？」と聞いたところ、「**通ったことがある**」が84.2%、「**今現在通っている**」が12.0%で、合わせると**実に96.2%が歯科医院への通院経験があった**【図1】。国民にとって歯科医療が必要不可欠なものであることがわかる。

また、現在通院中の人が12%いることから、アンケートの対象となった10代～70代の人口1億855万1千人(平成21年10月1日人口推計より)、歯科医院数6万8,303(平成22年)から単純計算すると1診療所あたり191人であり、多くの患者が通っていることになる。



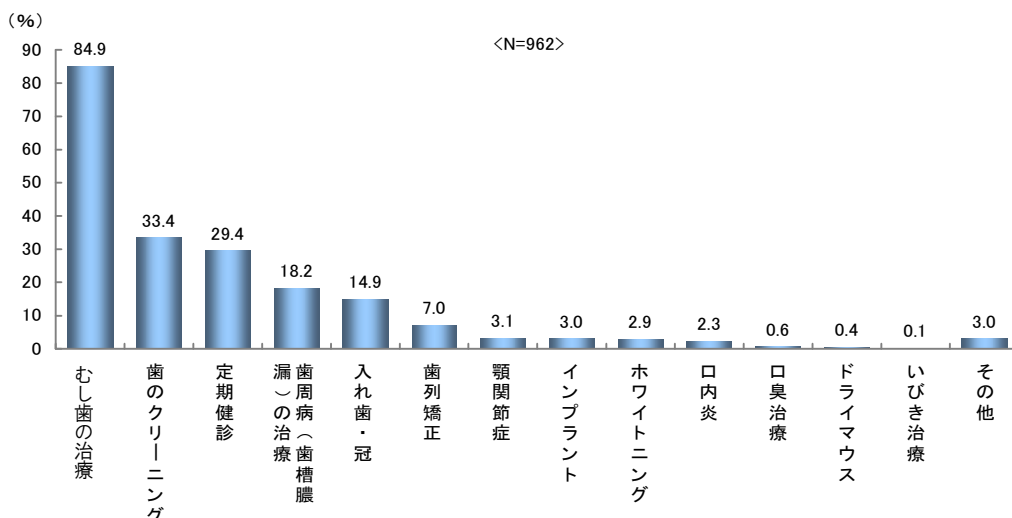
●Q2／歯科医院に通う(通った)目的は何ですか？

通院目的では「むし歯の治療」(84.9%)が多いが、歯周病に気づいていないケースも

歯科医院に「通ったことがある」「今現在通っている」と答えた人に、通院の目的を聞くと、**最も多いのは「むし歯の治療」(84.9%)、次いで「歯のクリーニング」(33.4%)、「定期健診」(29.4%)、「歯周病(歯槽膿漏)の治療」(18.2%)の順となった**【図2】。ただし、むし歯の治療と答えた人の中には、主訴はむし歯だが歯科医院で歯周病が発見され、歯周病の治療も行っているという人が多く含まれていると考えられる。また、国民の3人に1人は、歯を喪失する最大病因である歯周病の可能性があり、40代以上では8割が歯周病といわれていることを考えると、痛みの伴うむし歯に比べて初期には自覚症状があまりない歯周病が見過ごされ、気づかずに進行してしまっていることが懸念されることから、定期健診の重要性があらためて問われている。

男女別で見ると定期健診、歯列矯正、ホワイトニングで女性の割合が高く、歯や口腔の健康や美しさに対する意識の高さがうかがえる。図にはないが、10代女性では「歯列矯正」と答えた人が18.4%(約5人に1人)と突出している。

【図2】
歯科医院に通う目的
(複数回答)

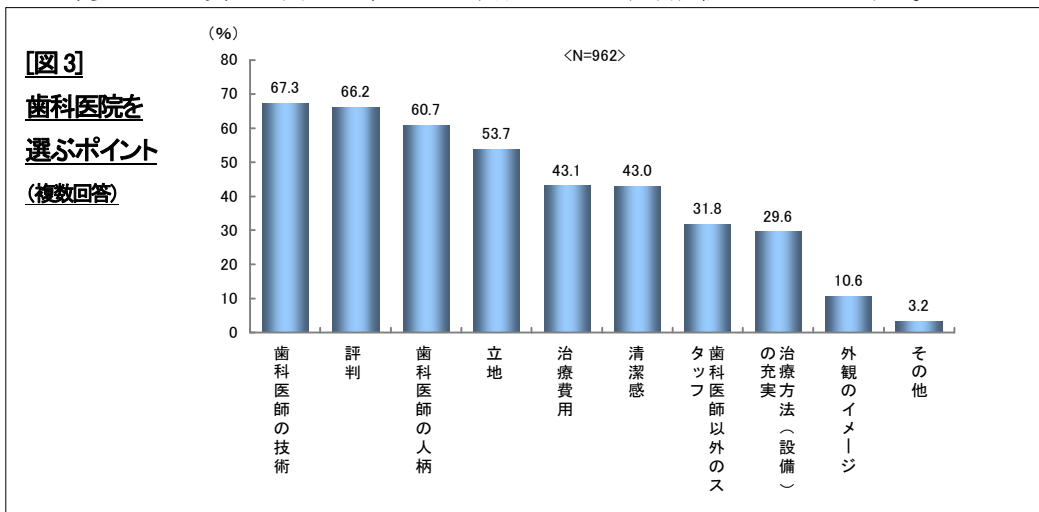


性別	男性 <n=477>	女性 <n=485>
むし歯の治療	85.5	84.3
歯のクリーニング	30.8	35.9
定期健診	24.1	34.6
歯周病(歯槽膿漏)の治療	19.3	17.1
入れ歯・冠	15.9	13.8
歯列矯正	5.7	8.2
顎関節症	1.5	4.7
インプラント	2.9	3.1
ホワイトニング	2.3	3.5
口内炎	1.7	2.9
口臭治療	0.4	0.8
ドライマウス	-	0.8
いびき治療	0.2	-
その他	2.3	3.7

●Q3／歯科医院を選ぶポイントは何ですか？

立地や費用より「歯科医師の技術」(67.3%)、「評判」(66.2%)、「歯科医師の人柄」(60.7%)で歯科医院を選択

「歯科医院を選ぶポイント」について聞いたところ、**最も多かったのは「歯科医師の技術」(67.3%)で、以下「評判」(66.2%)、「歯科医師の人柄」(60.7%)と続く[図 3]**。これらが「立地」(53.7%)、「治療費用」(43.1%)より重視されていることから、多少遠くて費用が高くても、しっかり治療してくれる歯科医院が選ばれるようだ。

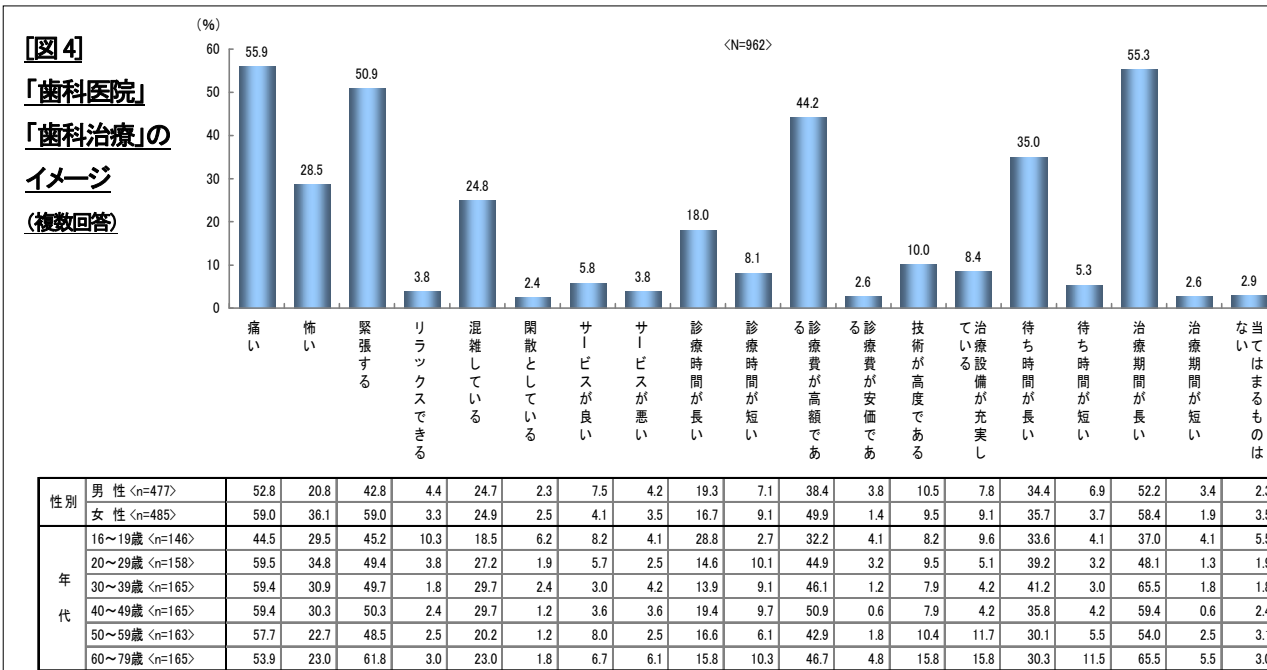


●Q4／「歯科医院」「歯科治療」のイメージとして当てはまるものはどれですか？

「痛い」(55.9%)、「治療期間が長い」(55.3%)など歯科医院のネガティブなイメージが 10 代の若者では改善

「歯科医院」「歯科治療」のイメージを聞いたところ、**最も多かったのが「痛い」(55.9%)。次いで「治療期間が長い」(55.3%)、「緊張する」(50.9%)、「診療費が高額」(44.2%)、「待ち時間が長い」(35.0%)の順となった[図 4]**。

一方、年代別に見ると、10 代は他の世代と比較すると「リラックスできる」と答えた割合が 10.3%と高く、逆に「痛い」(44.5%)、「治療期間が長い」(37.0%)などでは低くなっている。医療技術・器材の進歩や社会環境の変化などによって「歯科医院」「歯科治療」の現状は近年かなり改善が進んでおり、昔のネガティブなイメージをもたない若い世代では「歯科医院」「歯科治療」のイメージが大きく変わってきているようだ。



2. 歯科医師に関する意識

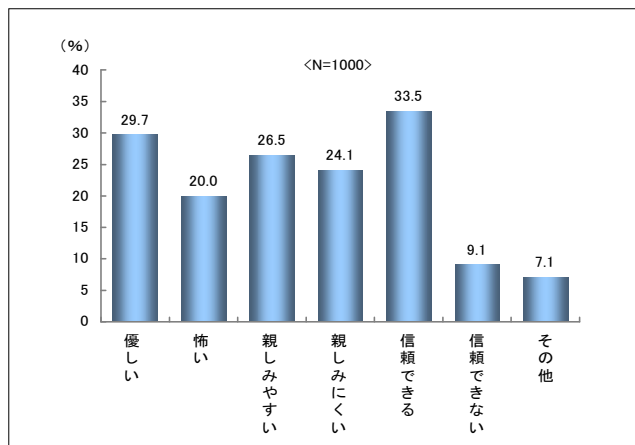
口は「食べる」「話す」「息をする」といった生命と生活の根源に関わる重要な器官だ。その口の健康を管理する役割を担い、予防や治療を行う「歯科医師」についての意識と実態を聞いてみた。

●Q5／「歯科医師」に対するイメージとして当てはまるものはどれですか？

歯科医師は「信頼できる」(33.5%)、「優しい」(29.7%)、「親しみやすい」(26.5%) などプラスイメージが多い

まず、「歯科医師」に対するイメージを聞いたところ、**最も多かったのは「信頼できる」で 33.5%。次いで「優しい」(29.7%)、「親しみやすい」(26.5%)**となっていて、**良いイメージが先行する結果となった**【図 5】。ただし、「親しみにくい」(24.1%)、「怖い」(20.0%)も2割を超えている。

【図 5】
「歯科医師」の
イメージ
(複数回答)



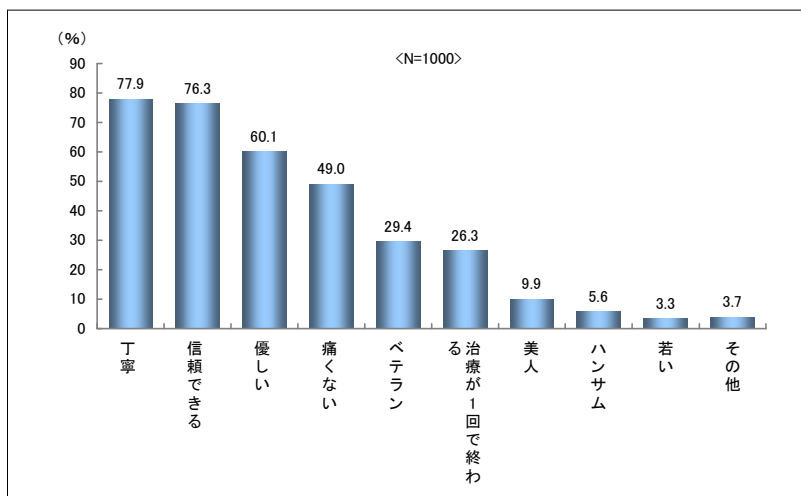
●Q6／あなたが思う「理想の歯科医師」とはどのような人ですか？

「丁寧」で「痛くない」治療をする歯科医師が理想

「理想の歯科医師とは、どのような人ですか？」と、現実ではなく理想を聞いたところ、**最も多かった回答は「丁寧」で 77.9%。次いで「信頼できる」(76.3%)、「優しい」(60.1%)、「痛くない」(49.0%)**などがあげられている【図 6】。

現実の歯科医師のイメージに多くあげられていたもの(「信頼できる」、「優しい」)以外の「丁寧」、「痛くない」を理想とするあたりに、患者が歯科医師に望んでいることが現れているようだ。

【図 6】
「歯科医師」という
仕事・職業に
対するイメージ
(複数回答)



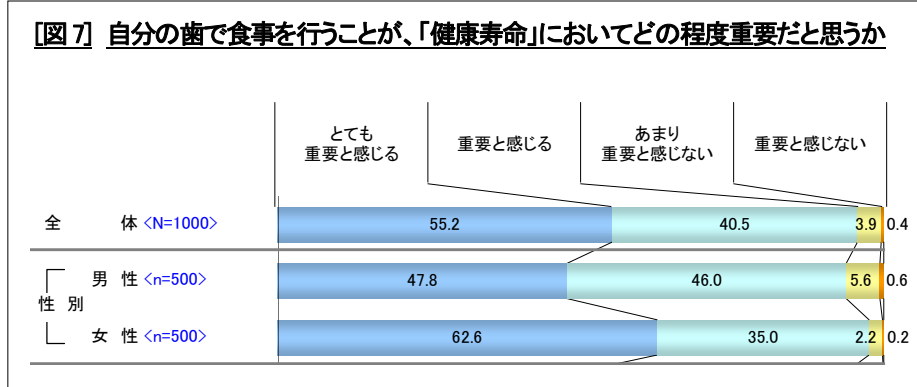
3. オーラルケアを含む歯科医療に関する意識

最近、口の健康が全身の健康と密接に関係していることが明らかになってきたことから、口内を清潔に保つてむし歯、歯周病を予防する「オーラルケア」（口腔の管理）の重要性が増してきた。「オーラルケア」についての意識と実態を聞いてみた。

●Q7／自分の歯で食事を行うことが、「健康寿命」においてどの程度重要だと思いますか？

ほとんど(95.7%)の人が、歳をとっても自分の歯で食べることの重要性を認識

「歯が多く残っている高齢者は、歯がほとんどない人に比べて医療費がかからず、寿命が長い」というデータがある。そこで「歯の本数をできるだけ多く保ち、自分の歯で食事を行うことが、生きていく上での『健康寿命』においてどの程度重要だと思いますか？」と聞いたところ、「とても重要と感じる」が 55.2%、「重要と感じる」



が 40.5%であり、合わせると 95.7%とほとんどの人が重要と感じていた【図7】。先進国の中でも生涯寿命と健康寿命のギャップ(要介護、寝たきりなどの期間)が大きいとされる日本では、健康寿命を生涯寿命に近づけるためにも、歯科医療の重要性について正しく認識することが必要だといえる。

性別で見ると、「とても重要と感じる」と答えた女性(62.6%)は男性(47.8%)を大きく上回っている。これは女性が日頃から家族の健康を意識していたり、介護に取り組んでいたりすることで健康についての情報に関心が高いことをうかがわせる。

●Q8／訪問(在宅往診)歯科診療を利用したことがありますか？

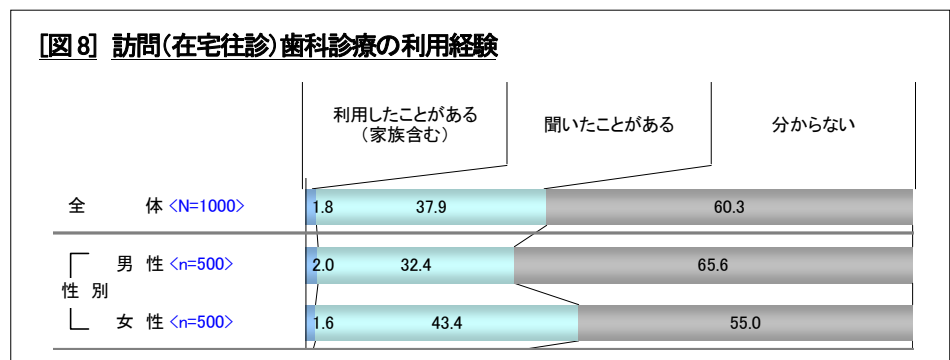
訪問(在宅往診)歯科診療の利用経験あり(家族を含む)が 1.8%とごくわずか

超高齢社会における在宅オーラルケアの必要性への認知がうすいと判明

「訪問(在宅往診)歯科診療を利用したことがありますか？」と聞いたところ、「利用したことがある(家族含む)」人は 1.8%とごくわずかである。一方、訪問歯科診療という言葉を知ったことがあるという人は 37.9%で、約4割の人が認知している。しかし、「分からない」という非認知者が 6割(60.3%)を占める【図8】。

近年、厚生労働省や日本歯科医師会では、訪問(在宅往診)歯科診療の重要性について広報を強化したことから、年々利用者が増加しているが、調査結果にみるかぎり、高齢者への在宅オーラルケアによる誤嚥性肺炎予防等の必要性認知についていまだ不十分であることが判明した。

性別で見た場合、「聞いたことがある」で 10%女性が上まわり、「分からない」で 10.6%男性が上まわっているのは、在宅介護における女性の役割の大きさと関心の高さを示しているといえる。



●Q9/『口の健康』が全身の健康に及ぼす影響と具体的な病気との関連とは？

8割の人が“口の健康が全身の健康に影響する”と考えているが、

具体的な知識をもっている人は半数に満たない

口の健康は、糖尿病、肺炎、心筋梗塞、低体重児の出産など、さまざまな疾病等と関連があり、全身の健康と密接な関係がある。したがって、歯科診療による全身病の予防・改善は、増え続ける国民総医療費の抑制につながると考えられている。

そこで『口腔の健康』はあなたの健康にどの程度影響を及ぼすと思いますか？と聞くと、「非常に影響がある」(28.8%)、「まあ影響がある」(48.6%)を合わせて8割近く(77.4%)の人が「影響がある」という認識をもっていた[図9-1]。

なお、「非常に影響がある」と考える理由としては「口の中が汚れていると感じる時は体調も崩しやすい」といった実体験に基づくものや、「テレビで見たので」というメディアの影響によるものも見受けられた。

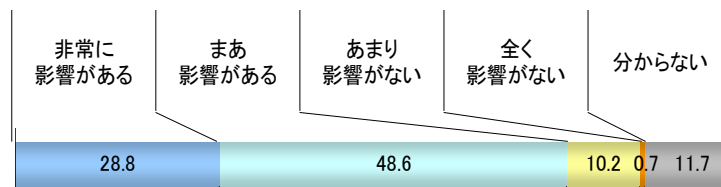
一方で「あまり影響がない」と答えた人は「歯について知識がない」や「関係ないと思うから」といった知識不足による理由が多く見られた。

次に口の健康が全身の健康に影響を及ぼすことについての具体的な知識の有無を調べるために、「口腔の病気が要因となる病気」について聞いたところ、50.3%と半数以上の人が「分からない」と答えた[図9-2]。“全身の健康にとってオーラルケアは重要である”という漠然とした知識をもっているが、歯科診療によってどのような全身の疾患を予防・改善できるのかということにまでは理解が及んでいない状況を示している。

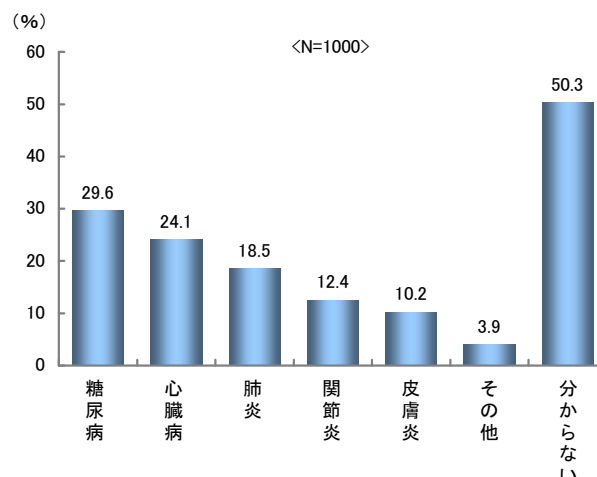
具体的な疾病については、「糖尿病」は 29.6%、「心臓病」は 24.1%、「肺炎」は 18.5%、「関節炎」(顎関節症など)は 12.4%、「皮膚炎」(口内の金属製の歯科修復物による金属アレルギーなど)は 10.2%の人が「口腔の病気が要因となる」と認識していた。

【図9-1】

「口腔の健康」は全身の健康にどの程度影響を及ぼすと思うか



【図9-2】「口腔の病気が要因となり得ると思う病気(複数回答)



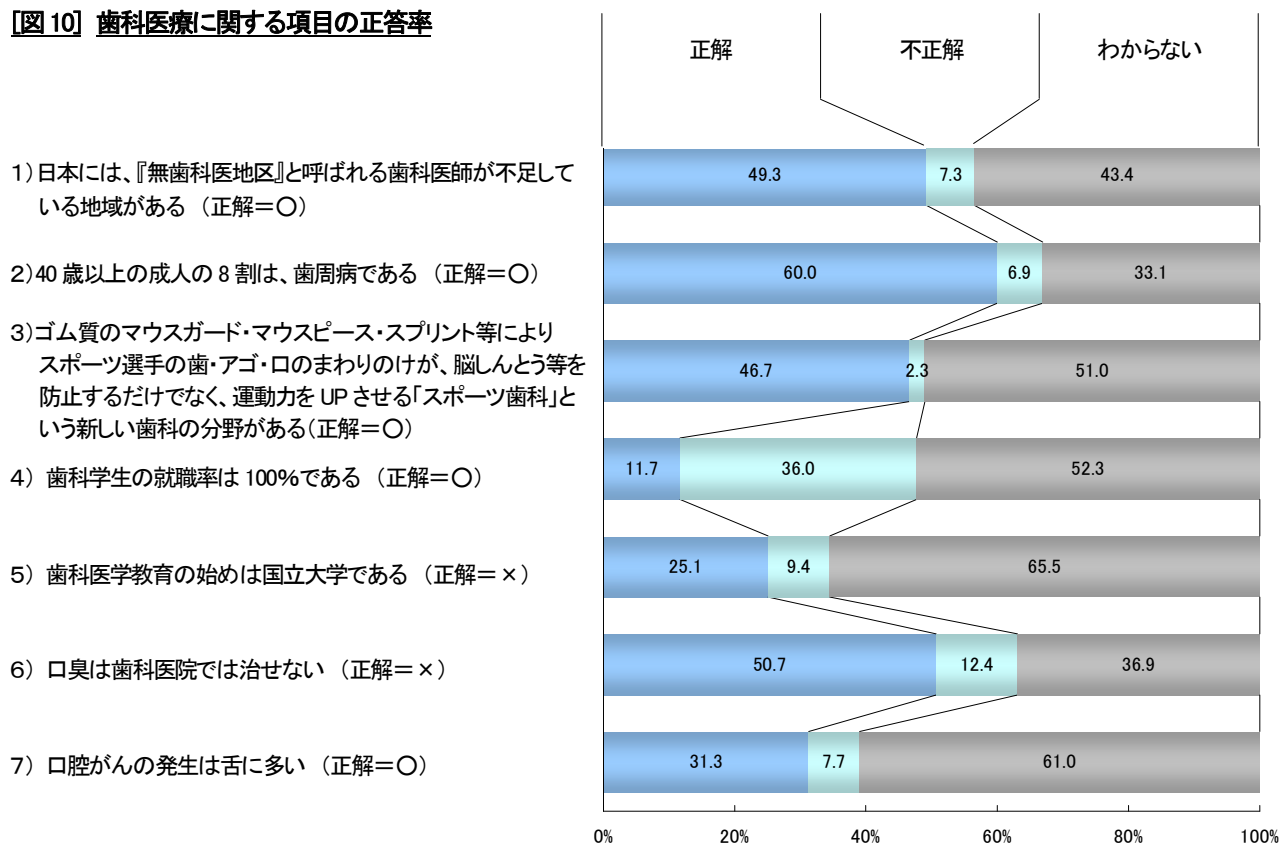
●Q10／歯科医療についての知識(正しいものに○、正しくないと思われるものに×で回答)

まだまだ歯科医療に関する正しい情報が伝わっていない現状が明らかに

歯科医療に関する知識を聞いたところ、正答率が最も高かったのは「40歳以上の成人の8割は、歯周病である(正解=○)」で60.0%、以下、「口臭は歯科医院では治せない(正解=×)」(50.7%)、「日本には、『無歯科医地区』と呼ばれる歯科医師が不足している地域がある(正解=○)」(49.3%)、「『スポーツ歯科』という新しい歯科の分野がある(正解=○)」(46.7%)などとなっている[図10]。

一方、「歯科学生の就職率は100%である(正解=○)」(11.7%)、「歯科医学教育の始めは国立大学である(正解=×)」(25.1%)、「口腔がんの発生は舌に多い(正解=○)」(31.3%)などが比較的正答率が低く、これらの情報はあまり国民に伝わっていないということが分かった。

【図10】 歯科医療に関する項目の正答率



★国民の「口の健康」に対する意識は高まっており、「歯科診療」「歯科医師」に対するイメージ・意識も徐々に変化しつつあるようだ。口の健康を保つことは全身の健康にも影響を及ぼし、健康長寿や医療費抑制にもつながるので、これからはもっと「歯科診療」、「歯科医師」と上手に付き合っていく必要があるだろう。